



2007年3月期 第3四半期 決算概要

2007年1月25日
NECエレクトロニクス株式会社

<http://www.necel.com/ir/ja/>

NEC ELECTRONICS

NECエレクトロニクスの中島でございます。

本日はお忙しいところ、決算説明会にお集まり頂き有難うございます。

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

I. 2007年3月期 第3四半期業績概要

✓半導体売上高は当初想定通りだったが、営業損益は製品ミックスの変化等により当初想定よりも悪化

II. 2007年3月期業績見通しと 損益改善に向けた取り組み

✓第4四半期は、LCDパネルやコンピュータ周辺関連の調整等の影響を受け、売上・GP(粗利益)の計画未達等により、第3四半期比で業績悪化の見込

✓構造改革プラン・成長戦略を2月22日に発表予定であり、同構造改革関連費用を精査中であること等から、現時点では、今年度の「連結業績予想」を据置く

まず、本日のプレゼンテーションのポイントをサマリ致します。

第3四半期の業績につきましては、半導体売上高は、民生関連半導体の好調もあり、当初の想定どおりとなりましたが、営業損益は製品ミックスの変化等により想定よりも悪化いたしました。

また、第4四半期は、売上・GPの計画未達により、第3四半期に比べ営業赤字が拡大する見込みではありますが、現在策定中の構造改革プランに伴う費用を精査中であり、本日は連結業績予想を据え置いております。

この成長戦略、構造改革プランについては2月22日に発表させていただく予定でございます。

I . 2007年3月期 第3四半期業績概要

II . 2007年3月期業績見通しと 損益改善に向けた取り組み

それでは、第3四半期の実績についてご説明いたします。

業績サマリ

(億円)	06/3期		07/3期			
	3Q, 12/31	9ヶ月累計	3Q, 12/31		9ヶ月累計	
	実績	実績	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	1,627	4,756	1,779	+152	5,209	+453
半導体売上高	1,568	4,571	1,711	+144	4,989	+418
営業損益	△70	△192	△38	+32	△108	+84
税引前損益	△44	△181	△35	+9	△91	+90
当期純損益	△26	△104	△58	△32	△131	△27

フリーキャッシュフロー	345	150	△76	△421	58	△91
-------------	-----	-----	-----	------	----	-----

D/Eレシオ	0.40倍	-	0.49倍	-	-	-
株主資本比率	48%	-	39%	-	-	-

為替レート	1US\$=115円 1Euro=138円	1US\$=111円 1Euro=137円	1US\$=118円 1Euro=150円	-	1US\$=116円 1Euro=146円	-
-------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	---	--------------------------	---

注1: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

上から2段目のところ、第3四半期の半導体売上は、前年同期と比べて144億円の増加、第2四半期と比べて14億円の増加の1,711億円となりました。9ヶ月累計で見ますと、前年同期比で9%、418億円増加し4,989億円となりました。

また、営業損益は前年同期と比べて32億円改善したものの、第2四半期と比べると27億円悪化の38億円の損失となりました。

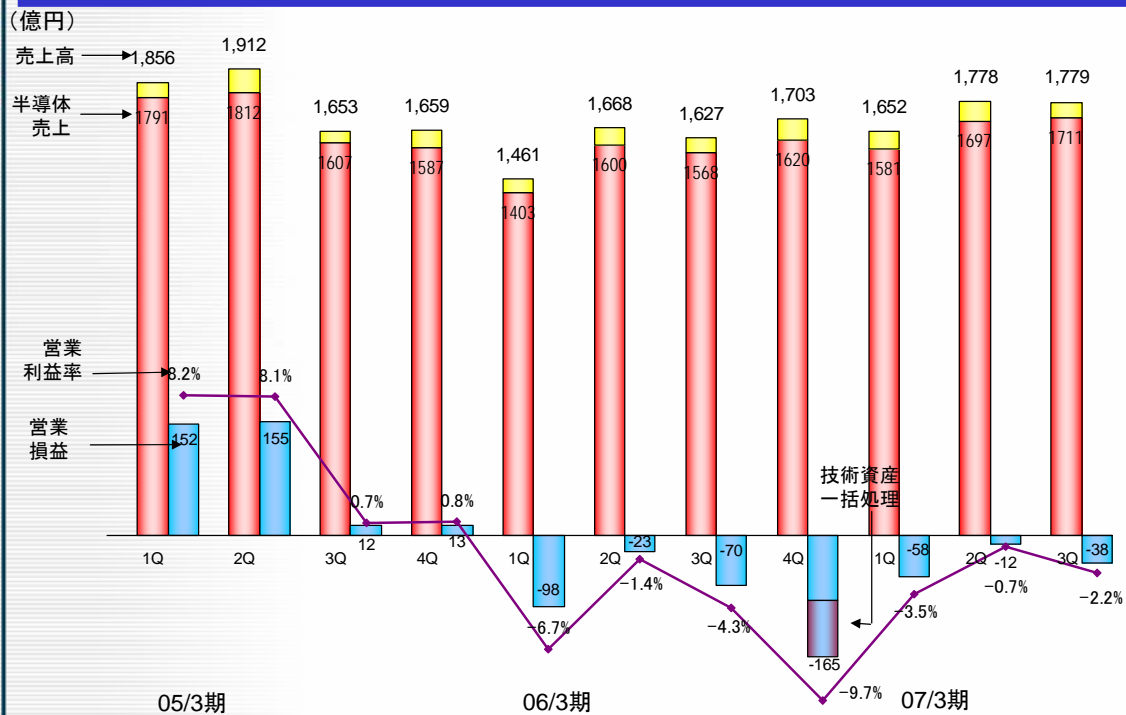
9ヶ月累計で見ますと、前年同期比で84億円改善の108億円の損失となりました。

第3四半期の税引前損益は35億円の損失、当期純損益は58億円の損失となりました。

フリー・キャッシュ・フローは、第3四半期では76億円の支出、9ヶ月累計では58億円の収入となりました。

株主資本比率は39%となりました。

四半期別業績推移

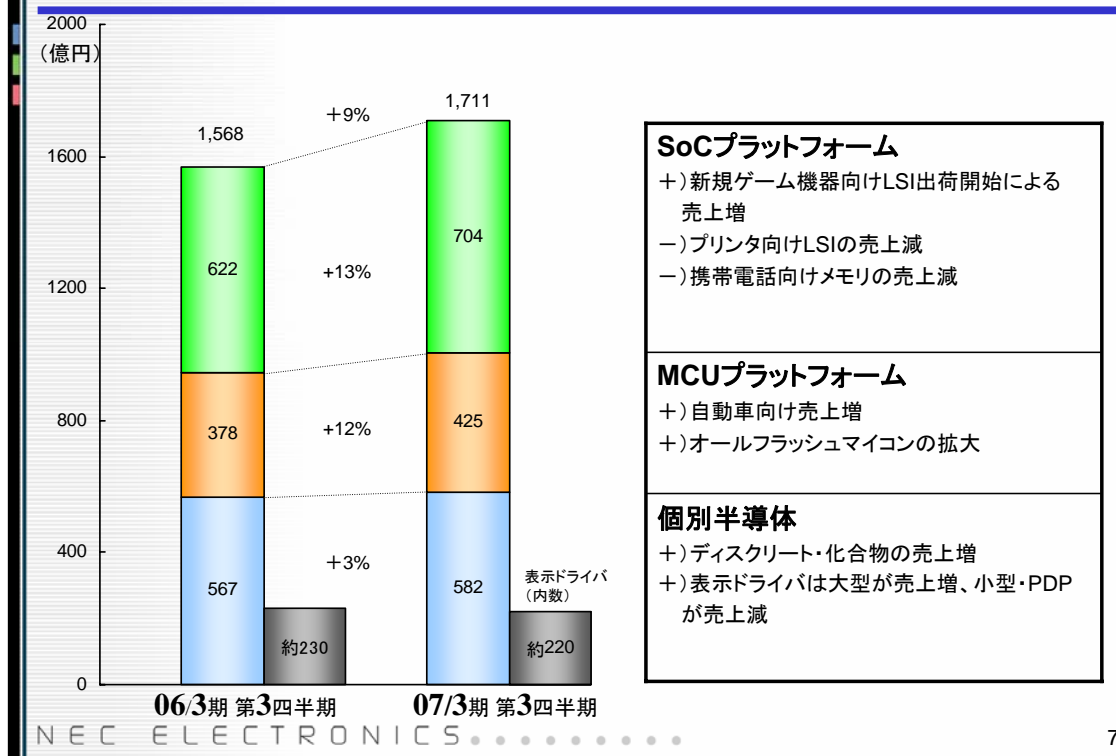


注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

次に、四半期ごとの業績推移です。

第2四半期には営業赤字が12億円というところまで着実に改善してきておりましたが、この第3四半期は、売上高の伸びが頭打ちとなり、製品ミックスの変化の影響もあり、営業赤字が再び拡大致しました。

製品別 半導体売上比較(前年同期比較) NEC

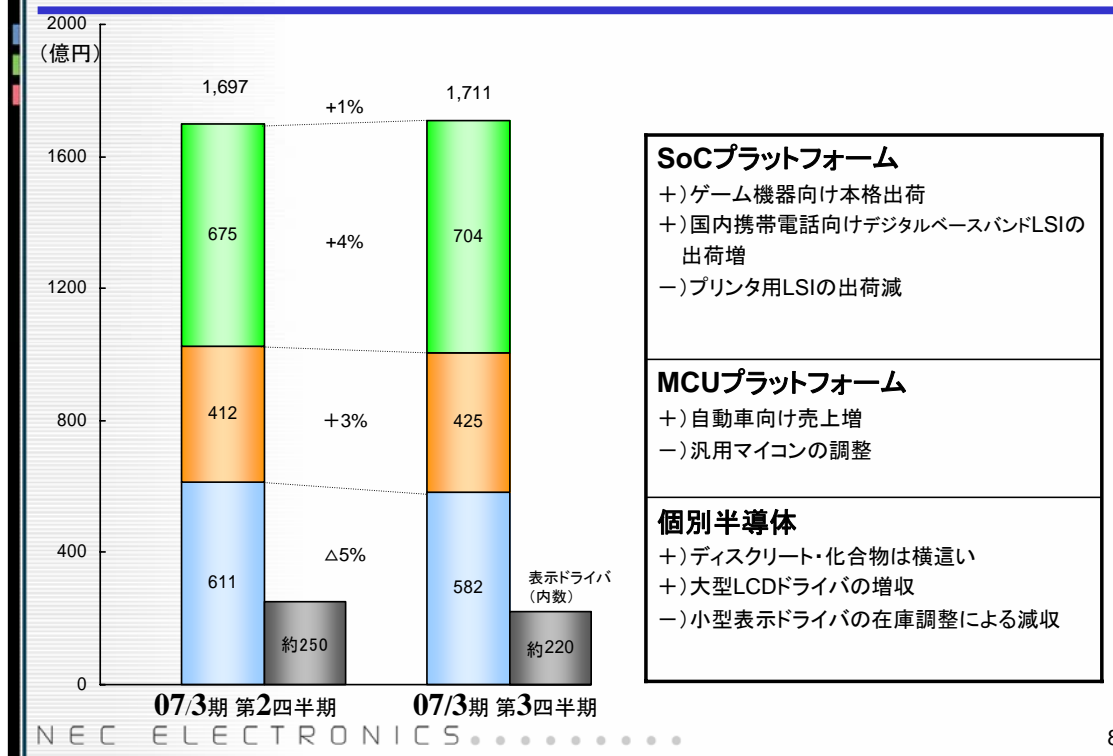


7

7ページは、第3四半期のプラットフォームごとの半導体売上を前年同期と比較して示したものです。

第3四半期は、新規のゲーム機向けプロジェクトや自動車用マイコン、オールフラッシュマイコンなどが牽引し、前年同期と比べると9%の増収となりました。

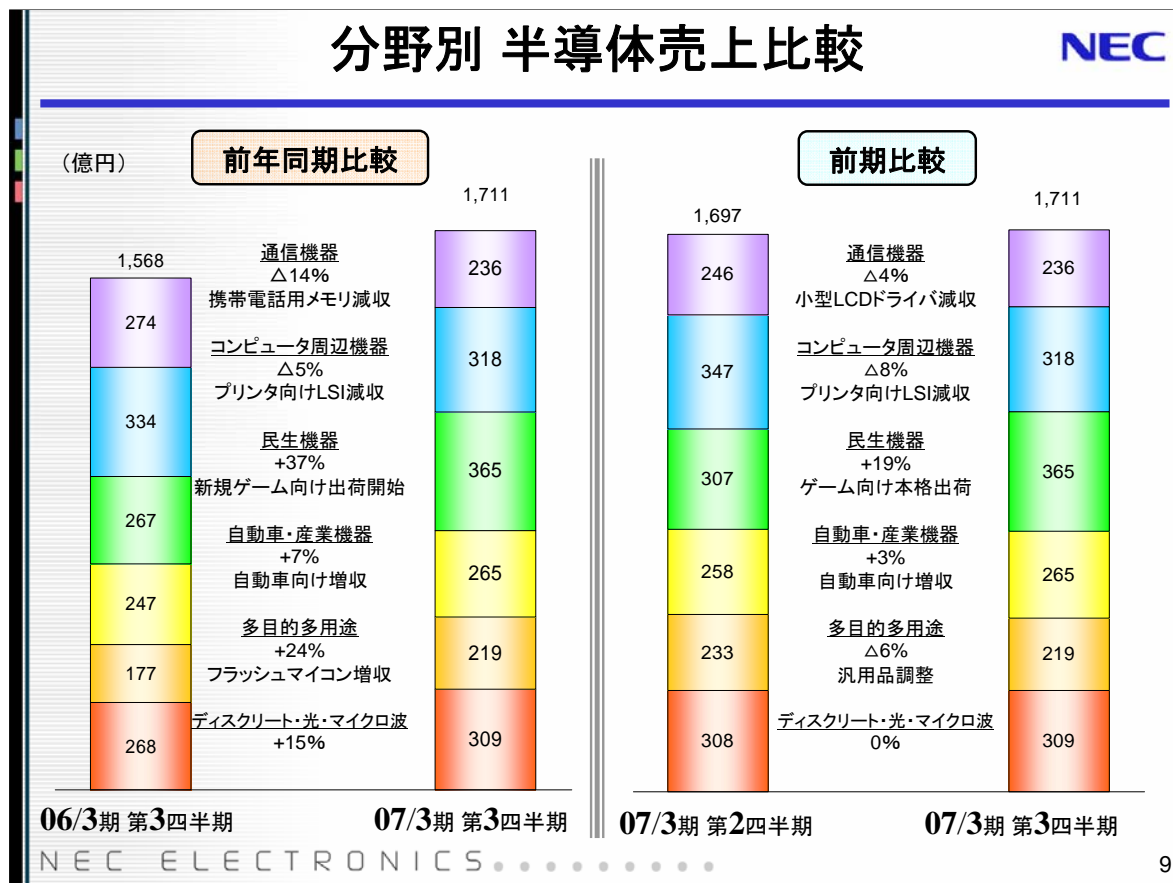
製品別 半導体売上比較（前期比較）



一方、第2四半期との比較は8ページにお示ししているとおります。

前四半期比では売上の伸びが頭打ちとなり、前年同期比ほどの伸びがみられなくなっています。

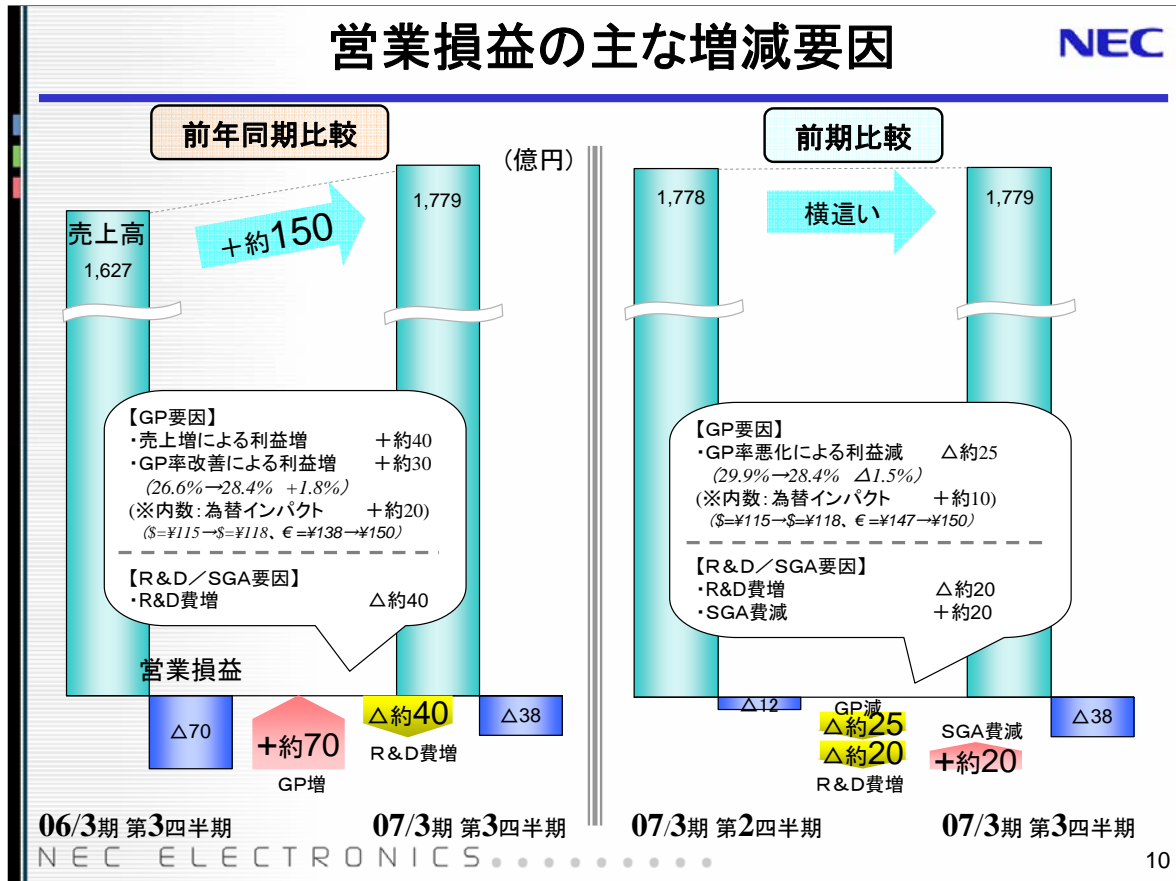
分野別 半導体売上比較



9ページは、第3四半期の半導体売上をアプリケーション(用途)ごとにお示したものです。

前年同期との比較、第2四半期の比較とも、上から3つ目の民生機器分野の売上が全体の半導体売上増の牽引役となりました。一方、通信機器分野およびコンピュータおよび周辺機器分野は、前年同期、第2四半期と比べても減収となっております。

営業損益の主な増減要因



10ページは、第3四半期の営業損益を前年同期および第2四半期と比較したものです。

前年同期との比較では、半導体売上が増加したことでGP率が上昇したことが営業損益改善の要因ですが、将来の成長のための研究開発費を戦略的に増加したことから、営業赤字が残りしました。

第2四半期との比較については、当初から、第3四半期の営業損益は第2四半期レベルとほぼ同等の損益を想定しておりました。半導体売上高は概ね想定どおりでしたが、GP率の低い製品の売上が想定より増加するという製品ミックスの変化があり、第2四半期と比べて営業赤字が拡大いたしました。

バランスシート

(単位:億円)	05/12	06/9	06/12
現金および現金同等物	2,369	2,220	2,126
受取手形および売掛金	996	1,167	1,051
たな卸資産	776	831	890
有形固定資産	3,060	3,059	3,057
その他の資産	904	494	393
総資産	8,104	7,770	7,517
支払手形および買掛金	1,283	1,692	1,507
社債および借入金	1,539	1,460	1,447
その他の負債	1,357	1,595	1,570
負債	4,179	4,748	4,524
少数株主持分	40	42	46
株主資本	3,886	2,980	2,948
負債および資本合計	8,104	7,770	7,517
D/Eレシオ (グロス)	0.40倍	0.49倍	0.49倍
株主資本比率	48%	38%	39%
繰延税金資産 (NET)*	549	10	2

注記: 上記繰延税金資産は、繰延税金資産と繰延税金負債NETして表示しております。

次にバランスシートです。

たな卸資産が9月末と比較して約60億円増加しております。これについては、欧米における年末製品在庫増という季節性の要因も影響しております。これにつきましては、3月末までに適正なレベルに棚卸を圧縮することを考えており、第4四半期は生産調整を実施いたします。

(単位:億円)	06/3期		07/3期		
	3Q	9ヶ月累計	2Q	3Q	9ヶ月累計
営業活動により増加した キャッシュ・フロー	358	504	268	195	541
投資活動により減少した キャッシュ・フロー	△13	△355	△87	△271	△482
フリー・キャッシュ・フロー	345	150	181	△76	58

次にキャッシュ・フローですが、

第3四半期のフリー・キャッシュ・フローは76億円の支出となりました。特に投資活動によるキャッシュ・フローは、300ミリウエハラインへの設備投資などに伴う支払いが378億円あったことの影響を受けました。

I . 2007年3月期 第3四半期業績概要

II . 2007年3月期業績見通しと 損益改善に向けた取り組み

次に、今年度の業績見通しと、当社の損益改善に向けた取り組みをご説明いたします。

今年度の業績予想について

2007年3月期第4四半期の業績が第3四半期よりも悪化するものと見込んでおり、この事態に対処するため、現在、中期的な業績回復に向けた構造改革プランを検討中。

これにより計上すべき損失・費用については現在精査中であり、その金額が確定した時点で、必要に応じその影響につき開示を行う予定。

前回の業績予想 (単位:億円)	06/3期 年間 実績	07/3期		年間 予想
		上期 実績	下期 予想	
売上高	6,460	3,430	約3,500	6,950
営業損益	△357	△69	0 *	△70 *
税前損益	△424	△56	△約134 *	△190 *
当期純損益	△982	△74	△約176 *	△250 *

為替レート

1US\$=	112円	115円	115円 3Q実績118円
1Euro=	138円	145円	145円 3Q実績150円

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2006年10月25日に公表した数値です

NEC ELECTRONICS

14

スライドの14ページは昨年10月25日に修正させて頂いた今年度の業績予想です。

本日、この業績予想を修正しておりませんが、次項でご説明いたします通り、第4四半期は第3四半期と比べて売上が減少すること等により営業赤字の拡大が避けられない状況になっております。

ただし、営業外損益等の動きが未確定であることと、営業損益自体も現在検討中の構造改革施策の内容に影響を受けるため、本日は連結業績予想を据え置いております。

構造改革プランの内容については2月22日の経営戦略説明会のなかで説明をさせて頂く予定ですが、関連費用が確定した時点で適切に情報開示をさせていただきます。

- 半導体売上高の減少

第4四半期の半導体売上高は第3四半期に比べて、減少の見込み

SoC：コンピュータ周辺向けの調整による売上減少

表示ドライバ：パネルメーカーの生産調整と価格低下による減少

- 生産調整(工場稼働の低下)

足元での需要減速と、12月末棚卸資産が高水準にあることから、生産調整を実施

	第3四半期	第4四半期
工場稼働率	9割強	約8割

- 一時的な費用増を伴う構造改革の検討着手

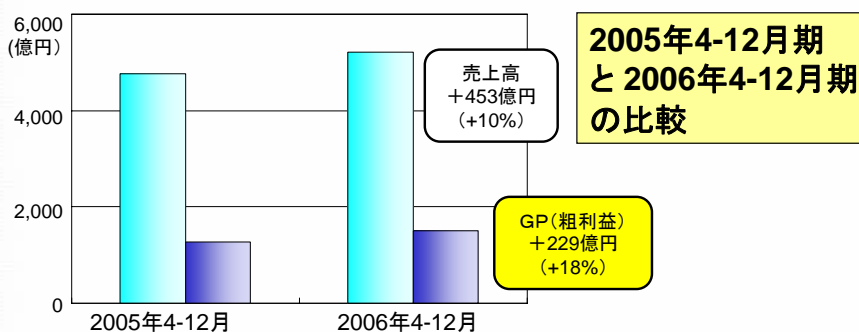
内容精査中であり2月22日に説明予定

第4四半期の営業損益の悪化要因について説明致します。

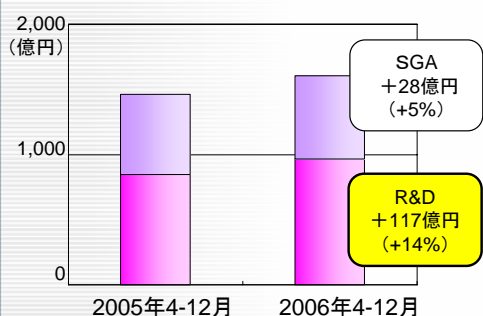
- ①まず、第4四半期の半導体売上高は、LCDドライバやPC関連用LSIの調整の影響を受け、第3四半期に比べ一桁前半のパーセントで減少する見込みです。
- ②さらに、足元での需要減速と棚卸資産水準の適正化を目的として、生産調整を行うことによる営業損益への影響が発生します。
- ③また、このような業績悪化の影響を踏まえ、当社では構造改革プランを策定中ではありますが、この内容によっては営業損益への影響も発生する可能性があります。

従来の売上拡大施策の成果と先行投資の状況

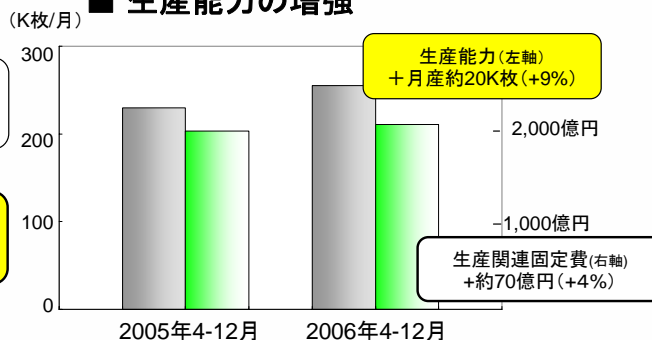
■ 売上高とGP (粗利益)の拡大



■ R&Dと販管費の投入拡大



■ 生産能力の増強



次に、構造改革プランを検討するにあたり、当社が認識している問題を説明いたします。

これまで、

当社は売上拡大を通じた拡大均衡による黒字化を目指しまい進して参りました。この施策により、2006年4-12月の9ヶ月の売上高は前年同期比で10%増加致しました。

しかしながら、

売上の2桁成長持続で収益を改善すべく、R&Dと生産能力増強のために積極的に投資をしましたが、売上拡大を維持できず、収益改善が足踏み状態となっております。

具体施策については
2月22日に発表予定

1. 売上の再拡大

製品開発競争力の強化、など

～ 注力製品を明確化し、製品ポートフォリオの再構築

2. コスト競争力強化と費用効率化

生産体制の見直し ～成熟製品群の海外生産シフトの加速、など

設備投資とR&D費の効率化推進、など

NEC ELECTRONICS

17

このような(前項)のような状況に加え、来年度前半にかけて市況が弱含むと想定されており、当社では、新たな成長戦略とそれを実現するための構造改革プランを策定しております。

その具体的な施策内容については2/22日に説明させていただきますが、基本的な考え方と致しましては、①売上の再拡大と②コスト競争力の強化であります。

①売上再拡大に向けては、これまでR&D費を多方面に投入したことにより開発リソースが分散し製品競争力が不十分となり、結果として新規ビジネス獲得が不足していたという点を見直し、まずは、現在、当社の注力分野/非注力分野を明確化し、多くのビジネスを獲得できる体制を作る必要があると考えています。

②コスト競争力強化については、成熟製品群のプライスダウンが厳しいことから、生産体制を見直す必要があり、まずは成熟製品群の海外シフトを積極的に進める必要があると考えています。

- ✓ 日時 : 2月22日(木)
- ✓ 場所 : 別途ご案内
- ✓ 当社説明者 : NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 中島俊雄

繰り返しになりますが、現在、構造改革の具体的プランを策定中であり、2月22日には経営戦略説明会を開催し、成長戦略とあわせてご説明させて頂く予定です。

今年度下期の営業黒字化も困難となる状況になり、株主の皆様をはじめ、ステークホルダーの皆様には大変ご心配をおかけして大変申し訳ないと思っております。

当社の業績回復に向けて、成長戦略とそれを実現するための構造改革プランを鋭意検討、策定中ですので、今暫くお待ちいただきたいと思っております。